



ベゴニア ～「わかった」「できた」「来てよかった」 の思いがあふれる補習校



天皇皇后両陛下とベルギー国王夫妻との交流行事に代表児童生徒が参加



6月23日(火)、グランプラスに隣接するブリュッセル市庁舎において、天皇皇后両陛下とベルギー国王夫妻との交流行事が行われ、本校から小学部4年生から中学部3年生の代表児童生徒24名が参加しました。

今年は日本とベルギーの国交樹立160周年という記念すべき年にあたり、今回の国の公式訪問はその節目を飾る大変意義深いものとなりました。

学校を出発する前に、「参加したくても叶わなかった仲間のことも思いながら、笑顔でしっかりと受け答えできるようにしていこう」という話を校長として私から子どもたちにしました。

会場では、天皇皇后両陛下やベルギー国王夫妻から補習校での学習の様子や好きな勉強、将来の夢などについてお声がけいただいた際には、子どもたちは日本語をはじめ、英語やフランス語、オランダ語、ドイツ語、スペイン語など様々な言語で堂々と受け答えしていました。その姿を見て、とても頼もしく感じました。また、一人一人に優しく丁寧に話してくださる天皇皇后両陛下の温かいお気持ちを、子どもたちもしっかりと感じてくれたことと思います。

今回の交流行事への参加にあたり、在ベルギー日本国大使館のみなさまには、当日はもちろんのこと、それまでの学校との調整や連絡など大変お世話になりました。この場をお借りし、あらためて厚くお礼申し上げます。

国語科小1「おおきなかぶ」小4「一つの花」―登場人物について考えながら物語を読む―



補習校の国語の授業では、学年に応じた様々な物語文を扱っています。

小学部1年生では「おおきなかぶ」、小学部4年生では「一つの花」の学習を進めています。どちらも日本の学校の国語教科書に掲載されている定番の教材で、登場人物の気持ちや行動を読み取りながら、物語の世界を深く味わうことをねらいとしています。

「おおきなかぶ」では、かぶを引っ張る登場人物が次々と増えていく繰り返しの表現を楽しみながら、それぞれの役割や気持ちについて考えました。「一つの花」では、戦時中という時代背景の中で、娘を思う父親の深い愛情について読み取りました。どちらの学年も、登場人物の立場に立って想像を広げながら、活発に意見を出し合う姿が見られました。

【第1回補習校漢字検定の受検者のみなさんへ】

〇/〇実施予定の第1回補習校漢字検定について、下記のとおりお知らせします。

〇日時:〇月〇日(〇)13:30~14:00

〇場所:本校3階合同教室(中2と中3の間の教室)

※漢字検定受検者は同場所での昼食可

〇持ち物:筆記用具、水筒等



【今後の予定】



HP 上は非公開